

岡山縣下吸虫類中間宿主の研究

(2)

「マメタニシ」に寄生する「セルカリア」(其の1)

岡山大学医学部寄生虫学教室 (主任 山口左伸教授)

稲 臣 成 一

[昭和25年8月10日受稿]

緒 言

「マメタニシ」に寄生する「セルカリア」については武藤氏(1921)が「肝臓デストマ」等8種を、更に3種を長野氏(1928)が報告しているが、之以外に多数の「セルカリア」の寄生を否定する事は出来ない。其所で私は岡山県上道郡産「マメタニシ」に寄生する「セルカリア」の観察を行ひ7種を認めた。本報では其内3種を述べ他の4種は後報に譲る事にする。なほ計測は総て生時「カバーグラス」で圧平したものである。

1. *Cercaria senoi* Faust 1924

活潑な運動を行ひ、体部は細長く紡錘形又は円筒形でその大きさは $0.067-0.092 \times 0.040-0.045\text{mm}$ で、体内部の構造は分化程度低く、腸管其他の器官は認めにくい。尾部は体部より遙かに長くその尖端は二つに分れている。尾幹部は $0.135-0.165 \times 0.015-0.022\text{mm}$ 、分岐尾は $0.034-0.056 \times 0.009-0.012\text{mm}$ である。

単性虫は円形、薄膜嚢状の「スポロシスト」でその内に2-10個の「セルカリア」をもち、大きさは直径 $0.2-0.45\text{mm}$ である。本種はLüheの所謂 *Furcocerke cercarien* の一群に属するもので、妹尾氏(1903)の乙種、小林氏(1922)の岐尾(セルカリア)群A種に類しており Faust(1924)の分類による *Furcocercaria* A群に属する *Cercaria senoi* に一致する。

2. *Cercaria mucoburcalsi* Faust 1924

活潑な運動を行ひ、体部は卵円形で大きさ $0.095-0.99 \times 0.057-0.068\text{mm}$ 、尾長 $0.064-0.078\text{mm}$ である。体の表面には微細な皮棘がある。口吸盤は $0.011-0.013 \times 0.009-0.012\text{mm}$ で筋肉性の嚢状であつて内に1個の著明な穿棘があり、大きさ $0.008-0.009 \times 0.002-0.003\text{mm}$ である。此直後に所謂梨子状体があつて、前咽頭は口吸盤背方に迂曲する為口吸盤にかくれている。咽頭は口吸盤の直後にあつて、 $0.006-0.008 \times 0.005-0.009\text{mm}$ である。消化器系は食道及び腸管は不明瞭である。2対の穿棘線は体後 $\frac{1}{8}$ の所で腹吸盤は前の両側にある。その輸管は体の両側を蛇行前走して、口吸盤側方よりその背面を通り穿棘前端両側に開口する。腹吸盤の大きさ $0.012-0.016 \times 0.013-0.016\text{mm}$ である。排泄嚢は体後端近くにあつて排泄集合管は体両側を前走し、体のほぼ $\frac{1}{2}$ の所で上下2枝に分れる。終末細胞型式は $2[(2+2)+(2+2)]=16$ である。尾部排泄管は尾端で開口している。単性虫は薄膜嚢状の「スポロシスト」で内に6-8個の「セルカリア」がある。大きさ $0.4-0.5 \times 0.1-0.15\text{mm}$ である。

本種は Faust の *Xiphidiocercaria* 群中の *Cercaria mucobuccalis* に一致する。尙本種は岡山産「カワニナ」、「マルタニシ」からも認められた。

3. *Cercaria of Pseudexorchis major*, Hasegawa. 1935.

体表には微細な皮棘をもち、汚穢淡黄褐色の顆粒が密在しその大きさ $0.24 \times 0.12 \text{mm}$ である。口吸盤、腸管及び腹吸盤の分化は低度である。口吸盤は $0.033-0.047 \times 0.032-0.042 \text{mm}$ で、その直後に大きさ $0.014-0.02 \times 0.016-0.018 \text{mm}$ の咽頭がある。此両側方に眼点がある。体後方 $\frac{1}{4}$ の所に直径 $0.022-0.029 \text{mm}$ の細胞群がある。之は恐らく生殖原基と思はれる。此前両側方に各側7個の2列に配列した腺群がある。之から各側2本の輸管を出し口吸盤背側を通過して体前端で開口する。排泄嚢は体後端部にあつてY字形をなしている。終末細胞は7対見られる。尾部は体部に浅く嵌入鱗状膜をもつてあり $0.48-0.5 \times 0.05-0.056 \text{mm}$ である。静止時は尾部を上にして浮游する。

単性虫は「レディア」で大きさ $0.82 \times 0.12 \text{mm}$ 、腸は前方の一隅にある。包蔵「セルカリア」は15-18個である。

文 献

- 1) 妹尾秀実 (1903) 動物学雑誌, 第15巻.
- 2) M. Lühe. (1909) Die Süßwasserfauna Deutschland.
- 3) 小林晴治郎 (1922) 動物学雑誌, 第34巻.

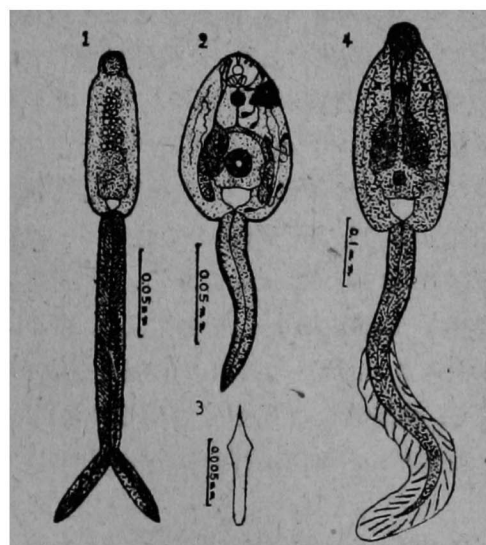


Fig. 1. *Cercaria senoi* Faust 1924.
 Fig. 2. *Cercaria mucobuccalis* Faust 1924.
 Fig. 3. Stylet of *C. mucobuccalis*.
 Fig. 4. *Cercaria* of *Pseudexorchis major*.
 (Hasegawa 1935.)

- 4) E. C. Faust (1924) The Am. Jour of Hyg. Vol. 4.
- 5) 高橋昌造 (1929) 岡山医学会雑誌, 第479号.

岡山県下吸虫類中間宿主の研究

(3)

「マメタニシ」に寄生する *Cercaria*. (其の2)

岡山大学医学部寄生虫学教室 (主任 山口左伸教授)

稲 臣 成 一

[昭和25年8月10日受稿]

前報に引続き岡山県上道郡産「マメタニシ」に寄生する「セルカリア」4種を追加報告する。なお計測は全部生時「カバーグラス」で圧平したものである。

1. *Cercaria* of *Echinochasmus japonicus* Tanabe, 1926

体部卵円形又は卵楕円形で $0.097-0.104 \times$